

二〇一九年度入学試験問題

国

語

(五〇分)

第三回 二月四日実施

〔注意〕 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。  
問題用紙も提出しなさい。

吉祥女子中学校



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数指定のあるものは、句読点やかっこなどもすべて一字に数えます。なお、問題の都合上、もとの文章から一部省略した部分があります。

「その人と世界との関わりを示すものとして物語がある」ということに関していえば、これにもまた私にはなるほどとうなずけることがあります。若い演出家の方に授業に来ていただいて、お話をさせていただいたときに、やはり「物語とは何か」を根源にたちかえって考えさせてくれるエピソードを彼が話してくれました。彼は、あるとき南フランスへ出かけて行って、一面のひまわり畑の中に立ったのだそうです。ところが、彼はひまわりに圧倒されてしまって、ほとんど気が狂いそうになったといっています。そのとき、彼は何をしましたか。①\*  
ゴッホのひまわりの絵を必死になって思い浮かべたというのです。そしてその目の前のひまわりと自分との間にゴッホのひまわりをおいて、そうすることで初めて精神の平衡を保つことができた。そう話してくれました。私は、それを聞いていて、ぞくぞくするような感動を覚えました。いや、感動というより刺激されたと言ったほうがいいかもしれません。

A、私たちは本当は対象となるものにじかに触れているように見えるけれども、いつもそこに何か借りてきて、それを通して対象と触れ合うということは無意識のうちにやっているんじゃないか。その借りてくるものとは何か。②\*  
自分が世界と直接結び結ぶということとはものすごく大変なことですよ。B 誰かが一度きり結んでくれて、こうだよという一つの物語、それを借りてくるのではないか。いま私という物語には絵も音楽も入っています。つまり自分は世界とどう関わったかに答え、それを一つの形にしたもの、と考えています。そういうものを通して、対象を把握するということをしよっちゅうやっているのではないかと思うのです。

借りてこられるものが全くなくて、じかに触れるということは本当に大変なことで、私はその演出家の話を聞いていううちに、物語とは何か、がふつとつかめた気がしました。C、日本でも一年のうちのある時期、空が本当にルネ・マグリットの青になる

注 \*ゴッホ……オランダの画家。

\*平衡……つり合いがとれていて、安定していること。バランス。

\*ルネ・マグリット……ベルギーの画家。



3\* ことがありますね。あるいは、小野木学さんのブルーという独特のブルーがあつて、そういうブルーに出会うと、あつ、これは小野木学さんのブルーだと思つたりしますよね。そのとき私たちは小野木学さんのブルーという「物語」を通して目の前のブルーと向かい合っている。D 波頭なみがしらを見ていると、「あつ、北斎ほくさいの波頭だ」と思わずつぶやく。もし、北斎のあの版画を見ていなかったら、本当にその波頭がこちらにとらえられたか。どうもあやしい気がするんです。ある人がこうつかんで、それを「物語」にした。その「物語」を借りてくることによつて、対象と向かい合う。そういうことを、私たちはみんなやっていると思うのです。

演出家がゴッホを持つてきたのも、おそらくそういうことだと思ひます。彼は周りのひまわりに圧倒されてしまつて、自分の位置がうまく確かめられないわけですよ。対象をしかとつかめないから自分の位置もつかめない。それで精神の平衡がとれなくなつたのだと思ひます。そこで必死めいじになつて借りてこられる物語をさがした。そうだ、ゴッホのあの絵があるじゃないか。ゴッホはすでにある方法でひまわりをとらえている。それを彼は自分と対象との間において、自分を防衛ぼうぎやうしたんですね。彼自身そう語つていました。「ああ、そういうこと、ある、ある」と私は聞いていて、思ひました。例えば、土門拳つとむけんの写像を見たあとで奈良の仏像を見るか、全く素手すてで、つまり何も借りてくるものなしに見るか。どっちが大変かというやつぱり、天才的な人は別として、私なんかは他人様ひとさまのそういう物語を借りてこないとなかなか対象がつかめない。⑥ じかに見ても、何かいっぱい見落としがあるわけです。他人様の物語を間に入れることによつてやつとつかむ。そういう力を借りながら、対象をつかむということをいつもやっているような気がいたします。自分の目で見ろ、自分の心で感じる、自分の頭で把握しろ、とよく言われるけれど、そんなことはちつとやそつとではできない。

阪神大震災はんしんだいしんさいはこの意味からも非常に大変だつたのではないでしようか。前例があれば、さらにいえば物語があれば、ああ、あの時はああいうふうには動いたんだとか、あの時はああいうふうに人びとは事態を受けとめたんだとか、そういう一種のモデルがあるわけですね、それが全くないわけですから。そういう借りてこようにも借りてこられる物語がない状態を生きなければならぬ。⑦

して、文学作品も、水面下ではぼつぼつあるのかもしれないけれども、今はまだ表に出てきていない。本当に物語が生まれるまでには、まだしばらく時間がかかるでしょうし、それはやむを得ないと思います。でもきつと、生み出さずにはいられないだろうという気はします。事態を把握しないでは、そして自分を納得させずには、人は生きられないでしょうから。

物語がない、あるいは持てないというとき、人はもう本当にどうしようもなく、納得できないまま浮遊し続けるしかない。自分の位置が確かめられないまま、浮遊し続ける。それは羅針盤なしに、あるいは海図なしに、ずっと漂い続けるという状態に耐えな  
⑧ きやならないということだと思います。ですから、私たちはみんな、いわゆるお話であれ、音楽であれ、絵画であれ、彫刻であれ、  
⑧ そういう物語、「私はこうつかむよ」とか、「俺はこうつかんだよ」という物語がほしい。そうやって、もし手元に借りてこられる  
⑧ 物語が あったならば、私たちはそれによってどんなに助けられるかわからないという気がいたします。

今おそらく子どもたちに押し寄せている物語は、コマーシャルイズムの「物語」か、学校の「物語」か、そのどちらかではないかという気がしますね。そんな状況の中で、私たちは第三の、あるいは第四の「物語」をどれくらい提供できるのか。

ただし、先程私は学校の「物語」を批判的に言いましたけれど、そう言いながら一方では、実はこれ、本気で考えているんですが、学校の役割はそうした「物語」を押し出していくところにある、とも思っています。もっと言うと、かつてある教育者が「学校の役割とは子どもを世俗化させること」と言ったのですが、私はそのシンポジウムに出ていまして、思わず拍手してしまいました。これ別に嫌味でも何でもありません。世俗化というのはどうということかとというと、社会的なものさしをちゃんと身につけさせること

注 \*小野木学……洋画家。絵本作家。

\*北斎……葛飾北斎。浮世絵師。

\*土門拳……写真家。

\*先程……以下の内容は本文の省略した部分で触れています。

ですね。そして、それはたしかに学校の役割だと以来私は思っているのです。

ですから、学校がそういう「物語」を子どもたちに提供するのには別に非難されるべきことではない。怖いのは何かというと、コマースリズムと学校、その二つの「物語」だけで世界が覆い尽くされてしまっている。子どもたちがそれしかない、と思いつまむことなのです。

家族には家族の数だけ違った物語があり、一人住まいの人にもそれぞれの物語があり、それぞれの職場にもまたそれぞれの物語がある。そういうことがどこかで伝えられればいいんですけどね。だから学校で先生が学校の「物語」を提示するのは悪いことではない。むしろ必要なことだと思います。ただ、その時に世界の広さも、物語の多様さも、ちょっと伝えてやってほしい。「これがすべてだよ」と提示しないで、「今は学校だから、役割だからこう提示するんだ」というところがどこかにあればいいのかもしれないと思います。

ところで、先程申し上げた、第三、第四の物語を提示するもののひとつに実は児童文学をあげてもいいのではないかと思っています。もちろん絵画もそのひとつならば、音楽もそうかもしれませんね。そしてどんな物語に出会えるかということは、どんな人間のモデル、どんな社会のモデルに出会えるかということであって、偉そうにひびくかもしれませんが、それは子どもたちの、あるいは私たちの世界観をつくっていくことになるんだろうと思います。

子どもの本だけに特徴的なことを、私がどう考えているか、ちょっとお話しておきたいと思います。

他でもすでに書いていますけれども、児童文学は日本では大人がまともに取り組むべきものだと考えられてきませんでした。

⑩では、なぜ児童文学は相手にされてこなかったかというところ、それがもっている向日性、別の言い方をすれば、そのハッピーエンディングのゆえではないか。光に向かうことを馬鹿にされてきたのではないのでしょうか。「でも」と私は思います。私はここ何年か、物事を否定することと、肯定することでは、どちらが本当のところエネルギーがいるか、と考えてきました。×をつけること

は案外誰にでもできるのではないか。そうエネルギーのいらぬことではないか。ほっとけば人は×をつけたがるものではないか。そんなふうに考えるようになりました。でも肯定することはどうでしょう。ものすごくエネルギーのいることではないでしょうか。あとでも申しませんが、人生を否定的に見ることは誰でもできる。でも、肯定的にとらえていくことはなかなか大変なことだと思つてです。

⑪ 大人の文学は、よくまあ、これだけ不幸に目を凝らすもんだと思われるほどに、Y ようにして人の不幸をえぐり出します

ね。それはそれで面白いんです。ではふり返って児童文学は何をやっているのかというと、ここ何年か私は、児童文学は幸福に目を凝らしているなあ、と思ひ始めたのです。子どもの本って、本当に幸福のさまざまな在りようを書いてあるんじゃないでしょうか。

これまたすでにどこかに書いたことですが、宮沢賢治の「狼森おいのもりと策森ざるもり、盗森ぬすもり」という小さな作品の中に、開拓農民＊かいたくの何家族かが開拓に出かけていって、「ここ開拓していいかあ」と東西南北の山に向かつて聞く場面がありますよね。そして、「いいぞう」という返事をもらって、喜んで鋤くわを打ち込み始める。そのとき、大人たちのうれしさが子どもたちにも伝染でんせんして、子どもがはしゃいで喧嘩けんかをおっぼじめますね。するとお母さんたちが、その子どもらの頭をぽかぽかとたたたく場面がある。それが、いかにも幸福そうに書いてあるんです。「ああ、人間て、そうだそうだ」と読みながら私は思いました。ほんとに子どもははしゃぐと喧嘩けんかを始めることがありますね。そしてそれをお母さんたちが、ぽかぽかと殴なぐる。ああ、なんとという幸福、と思ひました。この場面のなんと光り輝かがやいていることか。

ふり返って他の児童文学といわれるものを読んでみますと、みんなそうなんです。一見不幸と見えるなかに、よく目を凝らすといっぱい喜びが潜ひそんでいること、幸福がうごめいていることをちゃんと取り出して書いています。

ヴァージニア・ハミルトンの作品もそうですし、ルゥグウィンもそうかもしれません。もつというところ、昔話はほとんどがそ⑬うです

注 \*開拓農民……荒れ地や山林を切り開いて田畑にする農民。

ね。不幸に驚くおどろということとは放っておいても誰だつてする。不幸に目を凝らすことは放っておいてもみんなする。でも、子どもの文学はずっと幸福に目を凝らしたり、幸福に驚いたりする心を持った人によって、書かれ続けてきたんじゃないか。私はそう思うようになりしました。

この頃ころ、私は、幼いときに昔話やすぐれた児童文学に出会うこととて、とても大切だと前にもまして思うようになっていきます。

⑭「昔話を聞いたり読んだりして育った人は、それだけで人生に対する抵抗ていこう力がつく」とはよく聞くことですが、そのことが最近やつとわかってきたような気がします。

昔話で人は人生のイメージ・トレーニングをするんだつて言われますね。昔話というのはだいたい、(日本の昔話はちよつとヨーロッパのと違いますけれども)主人公が一人でいて、いつも前進し続けていって、最後には幸福になるという筋書きですね。これがくり返しくり返し、いろんな物語に出てくる。これらに出会うことによって、なるほど人はひとつのイメージ・トレーニングができるんだらうなと思いますね。

それから、必ず善が勝つのも昔話の特徴でしょう。善が勝つ、善が生きのびるということは、とくに小さい時にはこれでもか、これでもかと伝えてやらなくちゃいけないんじゃないでしょうか。そうやって生きるということを徹底的てつていてきに肯定してやること。それをしなかったら、すぐ「どうせ人間なんて」ということになってしまう。「どうせ生きたつて」「どうせ大人なんて」ということになる。私は児童文学とか、昔話は、人生を肯定的に見る下地をしっかりと子どもの中につくってくれるのではないかという気がしています。またそうであつてほしいと願っています。

(清水眞砂子『幸福に驚く力』)



問一 A D にあてはまる言葉としてもっとも適当なものを次の1～4からそれぞれ選び、番号で答えなさい。同じ番号をくり返し使つてはいけません。

- 1 たとえば      2 つまり      3 あるいは      4 だから

問二 線①「ゴッホのひまわりの絵」・線③「小野木学さんのブルー」・線④「北斎ほくさいの波頭」・線⑤「土門拳の写真」とありますが、この四つの具体例は、どのようなことを説明するためにあげられていますか。四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問三 線②「自分が世界と直接きり結ぶということとはものすごく大変なことですよ」とありますが、なぜですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分だけの力では先入観や見落としがあつて、対象を正確にとらえきれないから。
- 2 対象を把握できない限り人は生きてはいけず、漂うように生き続けることになるから。
- 3 他人の見方を参考にせず、一から自分の力だけで対象をとらえなければならぬから。
- 4 対象をとらえるためにひとりで格闘かくとうすることで、精神的に平衡を失つてしまうから。

問四 —— 線⑥「じかに」と同じ意味で使われている文中の~~~~線1~4の言葉を次の1~4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 対象をしかとつかめないから自分の位置もつかめない。
- 2 そこで必死になって借りてこられる物語をさがした。
- 3 ゴッホはすでにある方法でひまわりをとらえている。
- 4 全く素手で、つまり何も借りてくるものなしに見るか。

問五 —— 線⑦「借りてこられる物語がない状態を生きなければならない」について、

(1) どのようなことを言うのですか。もつとも適当なものを次の1~4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 前例がない災害で、他人の経験と比較しながら自分のケースを納得することができずに孤独なまま痛みに耐えて生きるしかないということ。
- 2 震災は紛れもない現実であって物語として語るには生々しすぎるため、言葉にならない思いにうちひしがれて生きていくしかないということ。
- 3 震災が物語になるには相当の時間が必要で、被害からすっかり立ち直らないうちは事態を把握する気力も湧いてはこないというここと。
- 4 悲しみはきわめて個人的なものでそれぞれに物語が必要だから、他人の物語を借りてきて自分を納得させるのは無理であるというここと。

(2) 「借りてこられる物語がない状態」について、たとえを使って表している部分を——線⑦より後の文中から三十字でぬき出し、初めの五字を書きなさい。

問六 —— 線⑧ 「そういう物語」とはどのようなものですか。文中の★の部分から二十九字でぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

問七 —— 線⑨ 「学校の物語」を提示する」とありますが、何のためですか。「…ため。」に続くように——線⑨より前の文中から二十字でぬき出し、初めと終わりの三字を書きなさい。

問八 —— 線⑩ 「なぜ児童文学は相手にされてこなかったか」とありますが、なぜですか。もつとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 児童文学は現実とはかけ離れた空想の世界が背景になっているのが特徴で、登場人物も現実には存在しない人々ばかりで、内容も平板でこっけいだから。
- 2 児童文学はおとぎ話に見られるようにあいまいなものが多く、いつ、どこで誰が書いたのかもわからない、根拠のはつきりしないものであるから。
- 3 児童文学はあくまで幼い子供相手に空想の世界の出来事を書いていて、現実の世界を生きぬく厳しさに少しも触れていないので、物足りないから。
- 4 児童文学は実社会での経験を積んでいない子供向けに書かれたもので、現実的な大人の目から見ると、たいてい同じような明るい結末を迎えているから。

問九 ———線⑪「大人の文学」・————線⑫「児童文学」の特徴について説明した次の文の I ・ II にあてはまる語句を、それぞれ十五字以上二十字以内で書きなさい。

「大人の文学」は

I

。それに対して、

「児童文学」は

II

。

問十 Y にあてはまる慣用句としてもつとも適当なものを次の 1 ～ 4 から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 重箱の隅をつつく
- 2 濡れ手で粟をつかむ
- 3 箸の上げ下ろしを言う
- 4 石橋を叩いて渡る

問十一 ———線⑬「そうですね」とありますが、どのようなことを言うのですか。それを説明したもつとも適当な一文を文中からぬき出し、初めの五字を書きなさい。

問十二 ———線⑭「昔話を聞いたり読んだりして育った人は、それだけで人生に対する抵抗力がつく」とありますが、なぜそうなるのですか。「…から。」に続くように四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問十三 ———線X「物語とは何か」とありますが、私たちは物語に出会うことでどのようなことができると述べられていますか。本文全体をふまえて考え、七十字以上八十字以内で書きなさい。

## 二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数指定のあるものは、句読点やかっこなどもすべて一字に数えます。なお、問題の都合上、もとの文章から一部省略した部分があります。

みなさんは「英語」の授業は好きですか？

ぼくは、それほど好きではありませんでした。仕事の関係でアメリカに住むようになって、残念ながら英会話はあまり上達しませんでした。

ところが、そんな英語が苦手なぼくでも好きな英語の歌はいっぱいあるんです。みなさんだって、お気に入りの英語の歌はたくさんあるでしょう。そのことと、英語が苦手だということはまったく矛盾しません。

歌詞カードを読んでも意味がつかめず、何を言っているのかさっぱりわからない英語、というより外国語の歌を聴いて、ぼくらはちゃんと感動することができる。ときにははぐつときすぎて、涙が止まらなくなることだってあります。

でも、<sup>①</sup>どうして、ぼくたちはまったく知らない言葉にすつと入っていくことができるのか？ 意味はわからないのに、なぜ気持ちを通じたように感じてしまうのか？ 不思議だとは思いませんか？

その謎を解く鍵、それは人類の歴史にあるんです。<sup>②</sup>

ぼくたち人間が学名ホモ・サピエンス（ヒト）という動物であることは、みなさんも知っていますでしょう。一説によれば、人類の祖先であるホモ・サピエンスが地球上に登場したのは、約二十万年前。アフリカ大陸で誕生したのだと言われています。

二十万年前といっても、彼らの体つきは我々現代人とまったく変わりません。脳の中身がちよつと違うのではないか、という説はありますが、少なくとも見た目はまるで同じなんです。

他の動物と違って体毛のない、つるんとした体つきの、脳の比率が体の比率に比べてやたらと大きいヘンな動物として、ホモ・サピエンスは二十万年前からアフリカ大陸で、ほそぼそと生きながらえていました。数も少ないし、他の動物たちに比べたら

A

力も弱い。今でいう「絶滅危惧種」\*みたいなものだったんです。

ところが、その弱いはずのホモ・サピエンスが十五万年間も生き続け、今から五万年前ぐらいになると急にその数が増えだして、アフリカからユーラシア大陸に渡り、さらに世界各地へどんどん広がっていったのです。

なぜ、そんなことがわかるのかといえ、五万年くらい前のホモ・サピエンスの化石が世界中から次々と発見されているからです。しかも、彼らが世界中に散らばっていくのと入れ替わるように、それまで世界のあちこちで生活していたはずの旧人類、たとえば、ネアンデルタール人や北京原人やジャワ原人などが揃って姿を消してしまっんです。

それまでの長い年月、アフリカ大陸でひっそりと暮らしていたホモ・サピエンスが、**B**に増加し、世界中に散らばっていくようになったのか？ なぜ、彼らと入れ替わるように、ネアンデルタール人や北京原人たちがいなくなってしまったのか？

この疑問には、ひとつの仮説が成り立ちます。

ホモ・サピエンスがそれまでネアンデルタール人や、北京原人、ジャワ原人の住んでいた地域に侵入して、彼らを絶滅させてしまった。どう考えてもそうとしか思えないのです。それまで弱い動物だったはずのホモ・サピエンスは、どういうわけか、滅多やたらと強くなっていったんですね。

③では、ホモ・サピエンスの強さとは何なのか？

たとえば、ネアンデルタール人は、**C**にはホモ・サピエンスより、はるかに遅い。もし、一対一だったら、どう考えてもホモ・サピエンスに勝ち目はありません。しかも、ネアンデルタール人は火を使うことができたし、石器を使う知恵も持っていた。

そんな手強い相手をどうやって倒せたのか？ 何か強力な武器をホモ・サピエンスは持っていたのでしょうか？ しかし、そんなすごい武器の化石はこれまで発見されていません。



となると、考えられるのは、ホモ・サピエンスは化石に残らないようなすごい武器を持っていたことになる。では、それは何かといたら、おそらく「言葉」なんですよ。今から五万年前にホモ・サピエンスは、より発達した言葉、難しい言葉を使うと「記号言語」を手に入れることができたんです。

では、なぜ、言葉が強力な「武器」になったのか？

それは、言葉があると知識の集積ができるからです。ホモ・サピエンスは言葉によって、自分たちの持っていた知識を、子どもや孫に伝えていったのです。

たとえば、この種をまいたら、リングができるという知識を持っている親は、それを子どもに伝える。その子どもが大人になり、リングの木に肥やしをやると発育がよくなることを発見して、自分の子どもに伝えていく——というように、どんどん知識が増えいき、それを実行することで世界はホモ・サピエンスの生活しやすい環境へと近づいていく。そのおかげで、ホモ・サピエンスはこの地球上に栄えることができた。言葉を持っていたからこそ、ホモ・サピエンスはこの五万年間で文明をここまで高度に発達させることができたのです。

ただし、二十万年間の人類の歴史の中で、我々が明確な言葉を獲得したのはたった四分の一の五万年間にすぎません。残りの四分の三にあたる十五万年の間、人間は明瞭な言葉を持たずに生きてきたのです。

④すると、その間、人間はいつたい、どうやって、気持ちを通じ合わせていたのでしょうか？ ぼくはそのことが、とても気になっています。

**D** 人間に近いサルは、どうやってお互いの意思の疎通を図っているのか？ まだ、言葉を獲得していない赤ちゃんは、どうやってお母さんに自分の意思を伝えているのだろうか？ などをあれこれ研究してみたのですが、どうも、言葉を獲得する前の人

注 \*絶滅危惧種……急激な環境変化などにより、絶滅のおそれがある動物や植物。



⑤ 間は「鳴き声」みたいなものを出して、お互いの気持ちを通じ合わせていたらしいんですね。

サル学の本を読むと、サルは仲間に危険を知らせる警戒音や、餌を見つけたサルが仲間を呼ぶために発する声があるそうです。それと同様に、言葉を持つ以前の人間は「ううっ」とか「ああっ」とか鳴き声のような、唸り声のようなものを発して、相手と意思を通じ合うことができていたらしい――。

では、話をもう一度、最初の疑問に戻しましょう。

なぜ、ぼくたちは意味のわからない外国語の歌を聴いて、それがわかったように、あるいは気持ちが通じたように感じるのでしょうか？

質問の形を変えてみましょうか。

外国映画のDVDを借りるとき、どうしてぼくたちは吹き替えではなく、字幕のほうを借りることがあるのでしょうか？

これなら答えやすいでしょう。ぼくたちは、たとえ、俳優たちが何を言っているのかわからなくても、ブラッド・ピットやキャメロン・ディアスのナマ声を聞きたいからです。意味はわからなくても、彼らの本当の声は、吹き替えの声とはまったく違う何かを、ぼくらに伝えてくれるからです。

ぼくは東南アジア諸国の日本語教師を指導するという仕事で、あの周辺の国々を回った経験があります。もちろん、現地の言葉なんか全然、わからないのですが、こちらが日本語、向こうが現地語でしゃべっているのに、なんとなく意味が通じてしまうことが、よくありました。

また、彼らの話に耳を傾けていると、相手の機嫌がいいのか悪いのか、隣の席に座っている男女が恋愛中なのかどうなのか、それとなく見当がついてしまうこともありました。

言葉の違いを超えた、相手の感情を理解する能力みたいなものを、ぼくらは自然に身につけているんです。



なぜ、そんな能力が身についているのでしょうか？

おそらく、人類が十五万年間、<sup>⑦</sup>明確な言葉を持たないままアフリカで暮らしていたときの記憶が、まだ、ぼくらの中に残っているからなんです。

「ううっ」とか「ああっ」とかいった言葉にならない言葉で気持ちを伝えていたときの遠い遠い大昔の記憶が残っているから、ぼくらは意味がわからない外国の歌に感動したり、まったく言葉の通じない外国に行っても、なんとなく気持ちが通じたりするんです。

つまり、ぼくたちが使っている記号言語<sup>①</sup>というのは、それ以前の言葉<sup>②</sup>にならない唸り声<sup>③</sup>のようなもの、言いかえれば、アナログな言語の上に乗ったデジタルな言語ということになるんです。我々は、<sup>④</sup>十五万年間の歴史を持つアナログ言語を地盤<sup>⑤</sup>として、その上に建てられた、<sup>⑥</sup>まだ五万年しかたっていないデジタル言語を使っている。見た目は建物<sup>⑦</sup>のほうが目立っていますが、基本はどちらも同じなんです。

話が少し難しくなりましたが、言葉というのはぼくたちが日常的に使っている便利な記号言語だけではない、ということを知っておいてください。

もちろん、国語の勉強のためには語彙<sup>\*①</sup>を増やしたり、言語能力を養うことは大切なことではあります。でも、ぼくは、みなさんの心の中にあるアナログな気持ち、言葉にならない気持ちというものを、ぜひ大切にしたいと思います。

そして、ここがいちばん肝心<sup>②</sup>なのですが、今、地球上に存在している人間はヨーロッパの人だろうが、アメリカ人だろうが、アジア人だろうが、<sup>③</sup>誰もが十五万年間もアフリカで暮らしていた人たちの子孫だということなんです。

ぼくらは国籍<sup>④</sup>や人種<sup>⑤</sup>が違っていても、同じ人間同士としてアナログな言語でちゃんとつながっているのです。そうである以上、ぼ

注 \*語彙……ある個人がわかることばの総数。

くら人類はもつとお互いを理解し合えるはずなんです。

⑥ ぼくは若いみなさんに、日本という国にこだわらず、もつと大きな目線で物事を見ることのできる人間になってほしいと思います。なぜなら、そのほうが人間として、より自由で豊かな生き方ができるはずですから。

(金田一秀穂『15歳の日本語上達法』)

問一 —— 線①「どうして、ぼくたちはまったく知らない言葉にすつと入っていくことができるのか？」とありますが、その理由を筆者はどのように説明していますか。「…から。」に続くように文中の☆の部分から四十字以上四十五字以内でぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

問二 —— 線②「人類の歴史」とありますが、本文の内容と異なるものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人類の祖先であるホモ・サピエンスは、十万年前は数も少なく力も弱く、今でいう「絶滅危惧種」のようなものだった。
- 2 人類の祖先であるホモ・サピエンスは、二十万年前にアフリカ大陸で誕生し、十五万年間ほそそと生きながらえていた。
- 3 人類の祖先であるホモ・サピエンスは、五万年前にネアンデルタール人や北京原人、ジャワ原人の住んでいた地域に侵入し、彼らを絶滅させた。
- 4 人類の祖先であるホモ・サピエンスは、我々現代人と体つきは変わらないが、体毛におおわれ脳の比率が体の比率に比べて非常に大きかった。

問三 A D にあてはまる言葉の組み合わせとしてもっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- |   |   |                           |   |                           |   |     |   |                          |
|---|---|---------------------------|---|---------------------------|---|-----|---|--------------------------|
| 1 | A | 全体的                       | B | 段階的                       | C | 体型的 | D | 原始的                      |
| 2 | A | 圧倒的 <small>あつとうてき</small> | B | 爆発的 <small>ぼくはつてき</small> | C | 骨格的 | D | 比較的 <small>ひかくてき</small> |
| 3 | A | 絶対的                       | B | 飛躍的 <small>ひやくてき</small>  | C | 筋肉的 | D | 相対的                      |
| 4 | A | 先天的                       | B | 結果的                       | C | 外見的 | D | 本質的                      |

問四 —— 線③ 「ホモ・サピエンスの強さ」とはどのようなことを言うのですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 正しいネアンデルタール人と戦うために仲間と話し合って協力し、力は弱くても有効な武器を開発できたこと。
- 2 ネアンデルタール人との戦いや環境に対して、さまざまな知識や経験を次世代に言葉で伝え改善に向かえたこと。
- 3 言語を持たないネアンデルタール人とは違い、意思が通じることによって役割分担が可能になり組織的に行動したこと。
- 4 ネアンデルタール人より脳が大きく発達し、なみな度重なる気候変動にも生き延びることができて文明を進歩させたこと。

問五 —— 線④ 「その間」とはどのような時を言うのですか、文中の言葉を用いて十字以上十五字以内で具体的に書きなさい。

問六 —— 線⑤ 「鳴き声」みたいなものを出して、お互いの気持ちを通じ合わせていた」とありますが、これと異なる例を次の

1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ファンが歓声かんせいを上げると、アイドルは微笑ほほえんで手を振ふった。
- 2 赤ちゃんがぐずって泣き出し、母親は急いでお乳ちちを与えた。
- 3 車の運転手が、サイレンを鳴らした救急車に道をゆずった。
- 4 狼おおかみに気づいた鹿しかが一声高く鳴き、群れは一斉いっせいに走り出した。

問七 文中の~~~~線ア〜カの言葉を二つの種類に分けて、それぞれ同じ種類の記号を解答らんに書きなさい。書く順番は問いません。

ア 明確な言葉      イ 記号言語      ウ 言葉にならない唸り声のようなもの

エ 十五万年間の歴史を持つアナログ言語      オ 五万年しかたっていないデジタル言語

カ 建物

問八 ——線⑥「もつと大きな目線で物事を見ること」とは、どのようなことを言うのですか。もつとも適当なものを次の1〜4か

ら一つ選び、番号で答えなさい。

1 言葉になる前の感情は人類共通であるから、国は違っても互いに理解し合えると考えること。

2 言葉こそ知識を伝え人間を進化させてきた大きな武器だと認識して、学習に取り組むこと。

3 言葉を超えた伝達能力に気づき、言語には頼らずに積極的に外国人との交流をはかること。

4 語彙を増やし言語能力を養い、その場に応じた言葉遣いや気配りができるように努めること。

問九 本文の内容と合っているものを次の1〜4から一つ選び、番号で答えなさい。

1 記号言語を発達させた現代の人間は、気持ちを通じ合わせる力が弱くなってしまった。

2 声に出した言葉には、何を言っているかという内容以外にも相手に何かを伝える力がある。

3 人類が国を超えて理解し合うためには、相手の言葉をきちんと理解することが必要である。

4 言語が違ってもお互いに顔を合わせれば、身振り手振りで自分の意思を伝えることができる。

三

次の1～6の——線のカタカナは漢字で書き、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

- 1 事故にあつて車をソンショウする。
- 2 彼かれの言うことはショウフクできない。
- 3 運動会ではんざいの声にショウワする。
- 4 レイハイ堂で祈いのりをささげる。
- 5 駅前の一等地をバイシユウする。
- 6 人間は社会生活を営いんでいる。

問題は以上です

